



いつもお世話になっております。

共同研究の住環境計画研究所様にご協力いただきながら、さまざまな場で、省エネ実証の狙いや、得られたデータから算出した省エネ効果についての発表を行ってきました。

どのような方々に向けてこの実証をPRしてきたか、一部をご紹介します。

## テーマ⑨ 对外発表について

これまで行ってきた発表としては以下のようなものがあります。興味を持っていただけるよう、それぞれの特徴に応じて発表内容を少しずつ変更しています。



### ● 日本建築学会

建築に関する学術・技術・芸術の進歩発達をはかることを目的とする学術団体です。会員数は3万5千名余りで、会員の所属は研究教育機関、総合建設業、設計事務所をはじめ、官公庁、公社公団、建築材料・機器メーカー、コンサルタント、学生など多岐にわたります。(参考：日本建築学会HP)



建築計画、構造、材料施工といった様々なテーマのうち、「環境工学」という分野で発表を行いました。効果検証の面から、モニターさまの属性情報(世帯構成、居住地域等)の考慮についてご意見をいただきました。商用版HEMSの中では、省エネサポートアプリ上で設定することにより、お客さまの属性変更にも柔軟に対応できるよう変更を行っています。

## BECC JAPAN

### ● BECC JAPAN (気候変動・省エネルギー行動会議)

省エネルギーのための行動変容に注目した研究発表を行う会議です。エネルギー業界、住宅・建築業界、メーカー、大学・研究機関、行政など幅広い分野からの参加があります。

省エネ住宅やHEMS等についての発表も多く、参考となる研究や実例がたくさん見られました。

「行動変容」がキーワードということから、本実証のコンセプトの一つである「リアルタイムな省エネアドバイスや効果的な見える化によって、モニターの皆さまに省エネ行動をとっていただく」という仕組みの有用性について、参加者の皆さまにご理解いただけたと感じています。

ご質問・ご意見として、

- ・北海道(寒冷地)以外の暖房システムの可能性は？
- ・あえて日射を取り込むような行動を行っていたか？

等、将来的な展開やさらなるエネルギー削減の可能性について貴重な助言をいただくことができました。

この他に、北海道で活動される団体に向けても、本実証についてお話しさせていただきました。そういったところと比較すると、今回紹介したような全国規模の学会の場合、「24時間暖房する家庭が多い」等、北海道の暖房状況についてご存知ない方がほとんどです。また、一般的な家電や設備等についても、寒冷地では凍結などの影響でそのまま使用できないものがあります。研究者や各企業の方々には北海道の冬の厳しさをご理解いただくことで、寒冷地対応を意識してもらうことも重要な任務の一つだと思っています。

次回が最終号の予定です。実証のまとめをご報告いたします！(2018年3月頃掲載予定)